

日本企業は日々、幾多の変化の中で戦う、
この「変化」に着目した変化対応型ファンドです。



投資環境の「変化」に対応

上昇局面では成長企業、下落局面では安定企業への投資

野村国内株式アクティブオープン



事業環境の「変化」に対応

業界の変化を察知し、事業機会を成長へと結びつける企業への投資

運用担当者に関する
野村アセット特設サイト



☑ 運用担当者より

(2026年8月4日 現在)

7月のTOPIX(東証株価指数)は0.21%の上昇、日経平均株価は8.14%の下落となるなか、当ファンドも5.46%の下落となりベンチマークであるTOPIX(配当込み)のリターン(0.22%)を5.68%下回りました。振り返ると、大幅な超過リターンが出過ぎていることに当惑を隠せなかった、4月の月次レポートで紹介した私の「過剰適応」という感覚は現実のものとなってしまいました。3月から徐々にポートフォリオのリスクを減らす方向で動いてはいましたが、市場の物色転換を予想して積極的な判断に踏み切るほどの確信度を持つには至らず、投資戦略の実行にも手探りでどこか暗中模索な感があったことを認めなければなりません。

中東情勢の悪化を受け、3月にたばこ株などディフェンシブ(景気に左右されにくい)株の組み入れを増やしたこと、4月下旬から電線株の組入比率を大幅に引き下げたこと、日本株全般の下落リスクが高まっていると判断し、下落局面で相対的に底堅い値動きが期待される銘柄を機動的に組み入れるなど、十分とは言えませんが効果を発揮した銘柄入れ替えもありました。しかしながら、6月末時点の組み入れトップおよび2位の村田製作所、東京エレクトロンが7月単月で34.92%、28.06%下落したことは想定外でしたし、TOPIX算入を前に株価上昇が続くと予想した6月末時点の組み入れ4位のキオクシアホールディングスが7月単月で48.15%暴落と予想が裏目に出たことも痛手となりました。

4月に「超過リターンが出過ぎている」と書いた時点で、その超過リターンのいくばくかは失うことになるはずで、ベンチマークとの比較という観点からの現実的な勝負はどの程度の負けでやり過ごすことができるかだと考えていました。そして実際には、1-6月に約22%積み上げた超過リターンのうち約4分の1を7月に失ったことになります。この結果を、運用者自身としては「今後に期待をつないでいる」と自己評価しています。7月のアンダーパフォーム幅は、ひどい数字ではありましたが、3月以降着実にポートフォリオを変化させてきた結果、このままズルズルとアンダーパフォームを繰り返すような状態からは脱しただろうと推察しているからです。また、市場全体を見ると、7月は株価の調整は一部のテクノロジー株に限られており、TOPIXは比較的堅調に推移しました。一部のテクノロジー株の調整(幅・時間)の終了を判断するには時間が必要ですが、4-6月の急速な株価上昇を受けた今回の調整は、過熱感の緩和につながる点で、長い目で見ればむしろ望ましいのではないかと感じています。目の株価変動は予断を許さない展開が継続する可能性があります。運用者の実感としては、市場が見えていない、見失ってしまった状態にある、とは感じておりません。引き続き、投資環境の変化に臨機応変に対応し、投資魅力度や確信度に応じてメリハリをつけつつ、受益者の皆様の期待に応えるべく、適切に投資を行なってまいります。

上記の内容は当資料作成日時点のものであり、予告なく変更する場合があります。資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(出所)各種情報に基づき野村アセットマネジメントが作成しています。

(注)上記の内容は、当ファンドの投資対象や投資環境についてご紹介しています。当資料は組入上位銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)/ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は

NOMURA 野村アセットマネジメント

商 号：野村アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号

加入協会：一般社団法人資産運用業協会 /

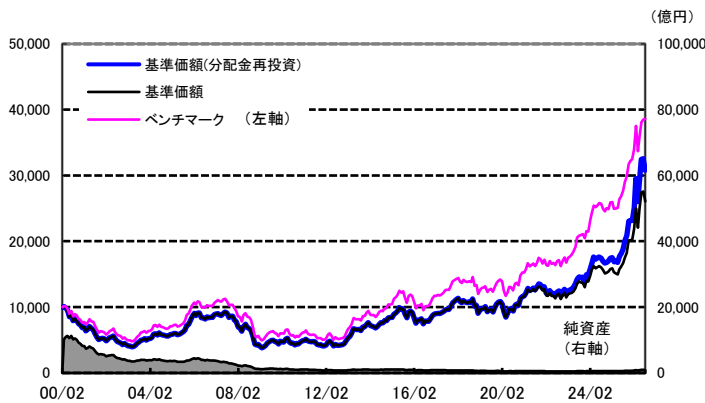
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

運用実績

2026年7月31日 現在

運用実績の推移

(設定日前日＝10,000として指数化：月次)



・上記の指数化した基準価額(分配金再投資)の推移および右記の騰落率は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って、実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに指数、騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

基準価額※ 26,061円

※分配金控除後

純資産総額 889.7 億円

騰落率

期間	ファンド	ベンチマーク
1ヵ月	-5.5%	0.2%
3ヵ月	4.2%	7.6%
6ヵ月	22.6%	13.6%
1年	63.9%	39.2%
3年	110.9%	84.9%

騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に選んだ期間としております。

設定来 207.9% 286.1%

- 信託設定日 2000年2月2日
- 信託期間 無期限
- 決算日 原則 2月、8月の各27日
(同日が休業日の場合は翌営業日)

分配金(1万円当たり、課税前)の推移	
2026年2月	710 円
2025年8月	400 円
2025年3月	270 円
2024年9月	250 円
2024年3月	300 円

設定来累計 2,740 円

設定来＝2000年2月2日以降

※ベンチマークは東証株価指数(TOPIX)(配当込み)とします。

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。

※ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

資産内容

2026年7月31日 現在

資産・市場別配分

資産・市場	純資産比
株式	98.4%
東証プライム	96.6%
東証スタンダード	1.3%
東証グロース	0.5%
その他	-
株式先物	-
株式実質	98.4%
現金等	1.6%

・株式実質は株式に株式先物を加えた比率です。

・純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

業種別配分

業種	純資産比
電気機器	24.6%
銀行業	9.4%
輸送用機器	6.8%
卸売業	5.9%
小売業	5.0%
その他の業種	46.8%
その他の資産	1.6%
合計	100.0%

・業種は東証33業種分類による。

組入上位10銘柄

2026年7月31日 現在

銘柄	業種	市場	純資産比
村田製作所	電気機器	東証プライム	4.6%
三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	東証プライム	4.1%
日本たばこ産業	食料品	東証プライム	3.2%
ソニーグループ	電気機器	東証プライム	3.1%
東京エレクトロン	電気機器	東証プライム	3.0%
三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	東証プライム	3.0%
オリックス	その他金融業	東証プライム	2.9%
シマノ	輸送用機器	東証プライム	2.8%
ファナック	電気機器	東証プライム	2.7%
トヨタ自動車	輸送用機器	東証プライム	2.7%
合計			32.1%

組入銘柄数 : 91 銘柄

・純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

・業種は東証33業種分類による。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は

NOMURA 野村アセットマネジメント

商号：野村アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号

加入協会：一般社団法人資産運用業協会／

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

先月の投資環境

○ 7月の国内株式市場は、TOPIXが月間で0.21%上昇し、月末に4,003.30ポイントとなりました。

○ 7月の国内株式市場は、日経平均は大きく下落したもののTOPIXは小幅に上昇しました。上旬は、AI・半導体関連株の乱高下はありましたが、長期金利上昇などを背景に銀行株などが上昇しTOPIXは最高値を更新しました。中旬以降は、米国や韓国のハイテク株の株価動向に影響を受けて振れ幅の大きい展開となりました。下旬にかけては中国大手半導体企業の台頭による競争激化懸念や中東情勢の再度の悪化などによりハイテク株を中心に下落しましたが、月末には海外大手企業のAI向け設備投資計画などが好感され半導体関連株などを中心に反発し、月間では小幅上昇となりました。

○ 東証33業種で見ると、中東情勢の再度の悪化による影響が意識された海運業など25業種が上昇しました。一方で、AI・半導体向け需要への過度な期待への懸念から非鉄金属など8業種が下落しました。

先月の運用経過

(運用実績、分配金は、課税前の数値で表示しております。)

○ 当ファンドの月間の基準価額の騰落率は-5.46%で、ベンチマーク(東証株価指数(TOPIX)(配当込み))を5.68%下回りました。ベンチマークとのリターン差を分析しますと、業種配分効果は、非鉄金属と電気機器をベンチマークより多めに保有していたことなどによりマイナスとなりました。銘柄選択効果は、電気機器や機械などの銘柄によりマイナスとなりました。

○ 買い付けしたのは、輸送用機器や電気機器などの銘柄です。業種別配分は、電気機器や非鉄金属などをベンチマークより多めに投資しています。

今後の運用方針(2026年8月4日 現在)

(以下の内容は当資料作成日時点のものであり、予告なく変更する場合があります。)

○ 今後の投資環境

日本経済は、堅調なAI関連需要や所得環境の改善などにより緩やかな成長が続いています。6月調査の日銀短観では大企業製造業の業況判断DIが前回のプラス17からプラス22へ上昇し、5月の実質賃金は前年同月比+1.4%と5ヵ月連続で前年同月比プラスとなりました。一方で、6月の企業物価指数と輸入物価指数(円ベース)はそれぞれ前年同月比+7.1%、同+29.7%と上昇しており、今後は消費者物価に転嫁されることで物価は上昇していく可能性が高いとみています。日銀は、月末の金融政策決定会合で現状維持を決定しましたが、物価の上振れリスクへの意識は高まっています。月末の日米当局による円買いの協調為替介入実施など円安への警戒感も高まっており、次の利上げ時期は遠くないとみています。

○ 今後の運用方針

当ファンドは、成長産業において業界内で競争力を有する銘柄や、成熟産業において勝ち残る可能性の高い銘柄、特定の分野・事業領域で高い市場シェアを持っている銘柄などに注目し、業績に見合った株価の銘柄を選別していく方針です。

業界内で高いシェアを持ち、堅調な業績拡大が見込める銘柄を、割安なタイミングで組み入れていくという基本戦略に基づき、ポートフォリオ全体としての運用戦略も加味して、ベンチマークを上回るリターンを目指します。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)/ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は

NOMURA 野村アセットマネジメント

商号：野村アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号

加入協会：一般社団法人資産運用業協会／

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

組入上位10銘柄の解説

2026年7月31日 現在

	組入銘柄	組入銘柄解説
1	村田製作所	セラミックスをベースとした電子部品の開発・生産・販売を手掛ける、世界的な総合電子部品メーカー。主力の積層セラミックコンデンサで高いシェアを有し、製造設備、材料から製品までの一貫生産体制や高信頼・高品質を支える技術力に強みを持つ。今後は、AIサーバー向けを中心とした部品需要の拡大による業績拡大に注目。
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本を代表する、国内外で幅広い金融サービスを展開するメガバンク。長らく国内の低金利環境が続いてきたことで貸出金利を引き上げられず収益拡大に苦戦してきたが、日銀によりさらなる利上げが行なわれた場合の収益性改善と市場評価の向上に期待。海外展開に積極的でその動向にも注目。加えて、さらなる株主還元向上にも期待。
3	日本たばこ産業	たばこ事業を中核とするグローバル企業。130以上の国・地域で製品を販売し、世界の主要市場で強固なシェアを有する。今後は、高水準の株主還元方針のもと、加熱式たばこ製品のグローバルでのシェア拡大の進展に注目。
4	ソニーグループ	エレクトロニクス分野で培った映像解析や画像処理などのテクノロジーを活かし、総合エンターテインメント企業へと変わりつつある。自社で保有するキャラクターや作品の価値最大化に向けて、ゲーム・映画・音楽などの各分野のコンテンツを制作。エンターテインメント領域を中心とした持続的な利益成長に注目。
5	東京エレクトロン	日本を代表する半導体製造装置メーカー。世界シェア1位や2位の製品群を有する。社会のデジタルシフトを背景に半導体市場が拡大する中で、近年は主力装置で市場シェアを上げており、半導体市場の成長率を上回るような今後の事業拡大に期待。
6	三井住友フィナンシャルグループ	グローバルで幅広い金融サービスを展開する、日本を代表するメガバンク。国内の低金利環境が続いたことで苦戦をしてきたが、日銀のさらなる利上げによる収益性改善や市場評価の向上に期待。海外証券ビジネスの強化やアジアでの買収と提携を通じた、さらなる海外成長にも注目。
7	オリックス	リースを起点に銀行・保険・不動産・投資・資産運用まで広げた多角的金融サービス企業。世界約30カ国・地域で事業を展開。プライベートエクイティ投資や不動産、空港運営、再生可能エネルギーなどの事業も手掛けており、現在は10セグメントで分散ポートフォリオを構築する。各種施策によるさらなるROE(自己資本利益率)向上に注目。
8	シマノ	自転車部品と釣具を主力とし、世界32の国と地域に展開するグローバル企業。1962年に実用化した冷間鍛造技術を核とする精密加工力を強みとする。欧州を中心に自転車市場の調整局面が続くなか、今後の在庫調整の一巡や新モデル投入を背景とした売上回復と収益性の改善に期待。
9	ファナック	CNC(コンピューター数値制御)システム、ロボット、ロボマシンなどの商品を展開し、グローバルで高いシェアを誇る。業界環境の改善に加え、他社との協業によるAI対応のロボットの受注増加にも期待。
10	トヨタ自動車	日本を代表する自動車企業。EV(電気自動車)化の流れが足元で欧米を中心に修正されつつあり、全方位戦略のなかでHEV(ハイブリッド自動車)での強みを生かした販売台数増加に期待。また、ROE20%目標を掲げ、グループ企業の再編を含む資本効率改善や、モビリティカンパニーとしての新たなビジネスモデル展開にも注目。

(出所)「組入銘柄解説」は、各社ホームページ等の情報に基づき野村アセットマネジメントが作成しています。

(注)当資料はファンドの組入上位銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は

NOMURA 野村アセットマネジメント

商 号：野村アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号

加入協会：一般社団法人資産運用業協会／

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ファンドの特色

- 信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。
- わが国の株式を実質的な主要投資対象※とします。
※「実質的な主要投資対象」とは、「ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
- 東証株価指数(TOPIX) (配当込み)※をベンチマークとします。
※東証株価指数(TOPIX) (配当込み)はわが国の株式市場全体のパフォーマンスを表わす代表的な指数です。
- ボトムアップ・アプローチをベースとしたアクティブ運用を行ないます。
- 株価の割安性をベースに銘柄選定を行ないます。
- 株式の実質組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。ただし、市場動向等により弾力的に変更を行なう場合があります。
- ファンドは「ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。
- 原則、毎年2月および8月の27日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。分配金額は、基準価額の水準等を勘案して委託会社が決定します。
* 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

ファンドは、株式等を実質的な投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 無期限(2000年2月2日設定)
- 決算日および収益分配 年2回の決算時(原則2月および8月の27日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の基準価額
- ご購入単位 一般コース:1万口以上1万口単位(当初元本1口=1円)
または1万円以上1円単位
自動引けぞく投資コース:1万円以上1円単位
※お取扱いコース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 ご換金申込日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、NISA(少額投資非課税制度)の適用対象ファンドにおいてNISAを利用した場合には課税されません。
ファンドはNISAの「成長投資枠」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.3%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 * 詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に年1.672%(税抜年1.52%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入資産の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時)	1万口につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

＜分配金に関する留意点＞

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。
- ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期末決算日の基準価額と比べて下落することになります。
- 投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

【ご留意事項】

- ・投資信託は金融機関の預金と異なり、元本は保証されていません。
- ・投資信託は預金保険の対象ではありません。
- ・登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。

ファンドの販売会社、基準価額等については、下記の照会先までお問い合わせください。

野村アセットマネジメント株式会社

★サポートダイヤル★ 0120-753104 (フリーダイヤル)

<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

★インターネットホームページ★ <https://www.nomura-am.co.jp/>

<委託会社> 野村アセットマネジメント株式会社

[ファンドの運用の指図を行なう者]

<受託会社> 野村信託銀行株式会社

[ファンドの財産の保管および管理を行なう者]

ファンドは、流動性のある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)、ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は

NOMURA 野村アセットマネジメント

商号: 野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会: 一般社団法人資産運用業協会 /
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

野村国内株式アクティブオープン

お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○		○	
株式会社北海道銀行	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第1号	○		○	
株式会社東北銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第8号	○			
株式会社武蔵野銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第38号	○			
株式会社山梨中央銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第41号	○			
株式会社北國銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第5号	○		○	
スルガ銀行株式会社	登録金融機関	東海財務局長(登金)第8号	○			
株式会社大垣共立銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第3号	○		○	
株式会社十六銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第7号	○		○	
株式会社池田泉州銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第6号	○		○	
株式会社福岡銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第7号	○		○	
株式会社筑邦銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第5号	○			
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第6号	○		○	
株式会社きらやか銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第15号	○			
株式会社みなと銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第22号	○		○	
株式会社宮崎太陽銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第10号	○			
横浜信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第198号	○			
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		○
安藤証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第1号	○			
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○	○	○	○
OKB証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第191号	○			
岡三証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡地証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第5号	○	○		
香川証券株式会社	金融商品取引業者	四国財務局長(金商)第3号	○			
木村証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第6号	○			
極東証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第65号	○			○
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○	
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第188号	○			
立花証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第110号	○		○	
むさし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第105号	○			○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
第四北越証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第128号	○			
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第20号	○			

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

野村国内株式アクティブオープン

お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
FFG証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第5号	○			○
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
丸三証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第167号	○	○		
丸八証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第20号	○			
リテラ・クレア証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第199号	○			
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第181号	○	○		
豊証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第21号	○			
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
PayPay証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2883号	○			

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

野村国内株式アクティブオープン

以下は、取次販売会社または金融商品仲介による販売会社です。
お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。